

『気仙沼と22世紀の禅語と大嶋啓介さんと光合成』の関係

皆さん、GW工事お疲れさまでした。この社内報が届くころには自分は物資を持って、石巻まで行っている頃です。石巻の専修大学に西三河掃除に学ぶ会のメンバーが主要となって TENT を張り自炊しながら6月末までボランティアを実施する予定で、自分も連休のパトロールが終了し次第、手伝いに行ってきます。

4月にも1度、気仙沼まで物資を持って行きました。TVの画面からある程度の覚悟をされていたのですが、映画のセットのような信じがたい光景が延々と続いていてショックというより、現実にはうまく受け入れられない無念さのようなものを感じました。誰にも何も文句は言えない。言うとなんか弱くなっていくだけ。受け入れるしかない。

一つ一つ片付けていくしかない。でも受け入れられない。

でもいつか日本はやり遂げる。

ふと頭に浮かんだ言葉、『ひとつ拾えば ひとつだけきれいになる』。

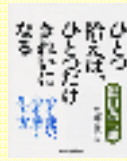
テクアの朝礼で必ず手にとる言葉。

最小の労力で最大の効力を発揮するように資本主義社会の中で
馴らされた我々の意識が、

瓦礫の山を見せられた時に感じる絶望感から我々を救ってくれる。

この言葉の持つ深い意味、鎮静作用のような言霊の力をあらためて感じました。

22世紀の禅語集には必ず載っている言葉だと思います。



プレゼント(物資)は気仙沼の主婦と子供たちで作った組織のところに持ち込み、段ボールにジュースや缶詰や醤油や味噌やレトルト食品を小分けにして詰め、テクア号(ハイエース)に乗せて、民家に運搬しました。東北の方たちは必ず、『うちがいいから、あっちのご家庭に持って行ってあげて』と言われます。日本人の持つエゴを主張しない、お互い様の文化が東北にはいまだにしっかりと残っていました。

また、子供たちの瞳がキラキラと光っていました。その瞳を通して、絶望してもおかしくない状況の中で輝いている大人たちがたくさんいるということを感じることができました。

自分もそんな大人の一人に、子供たちの手本になれる大人の一人になりたいと切に感じました。



先日、居酒屋てっぺんで有名な大嶋啓介さんの講演会に社員とともに総勢15名で参加してきました。大嶋さんはある時、世界の子供たちに比べて日本の子供たちは大人に魅力を感じていないことを知りました。大嶋さんのお父さんは警察官だったのですが、子供のころに殉職され、大嶋さんの中ではいつまでも尊敬できる理想の男像として生きていたもので、その事実には愕然としました。

子供たちを元気にしたい、夢を持ってもらいたい、その為にはまず大人が元気になってワクワクと夢を語る必要がある。

自分の仕事は居酒屋経営、だから日本一元気な居酒屋を創ろう！こうして生まれた居酒屋てっぺんは今や全国から年間1万人の人たちが朝礼を見学に来るまでになり、日本中に元気を発信し続けています。

大嶋さんと2次会でお話する機会がありました。

二酸化炭素(ガレキの絶望感)+水(居酒屋)+光(夢)=酸素(ワクワクする心)!

弱さを隠さず、魅力に変える、光合成のようないい男でした!!

震災支援、学校支援でも非常に共鳴しましたのでテクアとしてもなにか社会貢献していきたいと思っております。

まだ具体化はしていませんが楽しみにしておいてください! すべてを受け入れながら挑戦する大人の手本を子供たちに見せていきます!

テクアのメンバーはみな自分磨きが大好きです。自分を筆頭にみな自己成長バカです。最終的には自分を一刀彫のように仕上げ、社会に道具として差出し、使っていただく。

素晴らしい仲間と幸せな人生が送れ、その幸せ感、満足感がさらに自分の仕事を高めていく。震災の中、そんな光合成(三方よし!)のような人生が過ごせればいいですね。

出会いと気づきに感謝! 羽原篤史



P. S. テクア技研震災チャリティー30キロウォークの報告を忘れていました!

皆さまのお陰をもちまして5万1千511の義捐金を募金することができました。ありがとうございます。もちろん私も挑戦しました! 前日のPM5時に気仙沼を出発し、翌朝AM5時30分に会社に到着し、30分休憩し、着の身着のまま安全靴履いて30キロ歩ききりました!

『1歩あるけば いっぱだけ温泉に近づく!』

完歩後、ボロ雑巾のようにフワフワと湯船に浮いておりました。今回はとても子供たちに見せれる状態ではありませんでした(反省)。

